

カリキュラム

コースコード：26-144

タイトル		全社で取り組む品質管理の考え方・進め方			
サブタイトル		QC 7 つ道具の徹底活用で品質向上、不良率低減！			
研修のねらい		取引先の求める品質レベルの高度化に対応するためには、出荷検査だけでなく全社的な品質管理の体制構築が必要となります。 本研修では、顧客からの信頼を高め、品質不良による損失を改善するために品質を製造工程で作り込むQC（クオリティーコントロール）の考え方とその管理の進め方を学ぶとともに、演習を通じて自社の課題を検討します。			
研修の特徴		・生産現場で品質改善を実践するための品質管理手法を確実に使えるようになります。 ・初めて品質管理を担当する方にもQC7つ道具による品質管理手法がわかりやすく学べます。 ・不良品を製造しない現場を確立する品質管理の手法と進め方について学びます。			
対象者		管理者、新任管理者 ・標準化や品質管理を体系的に学びたい方 ・QC7つ道具を活用した課題解決手法を学びたい方 ・自社の不良ゼロ化に取り組みたい方	定員	20 名	
			研修期間/時間数	2026年12月1日(火)～3日(木)	
				3 日	21 時間
			会場	中小企業大学校瀬戸校 1階 PC実習室	
受講料		32,000円			
科目構成					
日付	時間	科目	内容		講師
12/1 (火)	9時20分～9時40分	開講式・オリエンテーション			
	9時40分～12時10分	品質管理の基本的な考え方・進め方	品質管理部門の役割として課せられる品質管理、品質保証について基本的な考え方を解説します。また、事実をもとに現状を把握することや、PDCAを回すなど、品質管理の取り組みのポイントを学びます。さらに、QC7つ道具をはじめとした品質の管理と改善の基本手法について、豊富な事例を交えて学びます。 (1) 品質管理の意義・目的 (2) 品質管理・改善の基本的な考え方と進め方 ①統計的な考え方 a) 事実に基づく考え方 b) 重点指向の考え方 c) 原因と結果で物事を考える d) 標準化 e) パラツキを物差しにする ②改善のQCステップ（QCストーリー） ③PDCAを回す／後工程はお客様／不良損失金額算出 の考え方 (3) 品質管理の基本手法（QC 7 つ道具）		一般社団法人中部産業連盟 V M推進事業部 部長 上席主任コンサルタント 伊東 辰浩
	13時10分～17時40分	QC7つ道具を活用した問題解決（演習）	QCストーリーに従い、複数のQC7つ道具を使って問題解決に取り組むグループ演習を行うことで、実務の問題への対応力を高めます。 (1) Q C ストーリーに沿った問題解決の進め方 (2) Q C 7 つ道具の複合的な使い方		
	18時10分～19時10分	受講者交流会			
12/2 (水)	9時00分～12時00分	不良の原因追及と再発防止	不良が発生する仕組みを知り、その再発防止の取り組み方について学びます。 (1) 原因の深掘り (2) 人為的ミスの分析 演習：なぜなぜ分析		
	13時00分～17時30分	見える品質管理の体系と実施ポイント	PDCAを見える化することで内容の質を高め、管理サイクルのスピードを早める「見える品質管理」について、その有効性や概要、具体的な実践方法を学びます。 (1) 見える管理・マネジメントの必要性と概要 (2) 見える品質マネジメントの体系 (3) 見える品質マネジメントの基本的要件 (4) 見える品質管理の基本 (5) 見える品質管理の実践ポイント ①不良対策管理 ②不良予防管理 ③品質方針・目標管理		
12/3 (木)	9時00分～12時00分				
	13時00分～16時30分	見える品質管理の道具立作成と自社課題の管理方法の改善検討（演習）	見える品質管理に使用する道具立を作成し、自社の品質に係る課題に対する管理方法の改善を検討します。 (1) 見える品質管理の道具立作成 (2) 自社の品質課題に対する管理方法の改善検討		
	16時40分～16時50分	閉講式			
講師氏名		略歴			
伊東 辰浩 (いとう たつひろ) 一般社団法人中部産業連盟 V M推進事業部 部長 上席主任コンサルタント		2008年中産連入職以来、多数の企業でコンサルティング、教育研修に従事。 全日本能率連盟認定マスター・マネジメント・コンサルタント。経済産業大臣登録中小企業診断士。 専門分野は、5 S・V M（見える経営・見える管理）活動の推進、品質管理を含むVM-FMS（フレキシブル生産システム）の構築および管理・改善、管理間接業務改革・革新など。 著書に「モノづくり企業の品質管理大事典（共著）」など。			